

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻中学校】

| ⑥ 次年度への課題と改善策 | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | R5年度さいたま市学習状況調査の1年国語について市平均を上回った。全体的には「知識・技能」の定着について課題がみられたが、目標値を達成できる生徒と課題のある生徒との間に個人差が大きいと考えられるため、個別に必要な支援を講じていく。ドリルパークやスタディサブリを活用して繰り返し問題に取り組んだことは、自校の平均正答率上昇につながったと考えられるため、継続して実施していく。 |
| 思考・判断・表現 | 「課題解決に向けて自分で考え取り組む」主体的な活動、「他者の意見を取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりする」対話的な学びについての肯定的な回答は90%近い値ではあるが、「学習内容について見直し、次につなげることができる」の肯定的な回答は80%程度に留まっている。今後、教師が生徒の考えたプロセスを把握し、生徒自身が自分の考えに説得力がもてるような授業改善に努めていく。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 「主体的・対話的で深い学び」の質問項目について、肯定的な回答がどの項目も80%近い数値であった。今後より一層「主体的・対話的で深い学び」に取り組む生徒を増やす授業を展開していく。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問項目について、自校の肯定的な回答は53%であるため、R6年度は肯定的な回答が+3pt向上できるように、学校で学んだことを家庭学習につなげる手立てを講じていく。 |

| ① 目標・策 | | |
|---------------|--|---|
| | 目標 | 策 |
| 知識・技能 | R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語、数学の「知識・技能」において2pt向上させる。 | ⇒ ドリルパーク、スタディサブリを活用し、繰り返し問題に取り組む機会を設定する。 R5全国学力学習状況調査の問題を、R6年2月末に授業で取り扱う。 |
| 思考・判断・表現 | R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語、数学の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。 | ⇒ 記述による解答を求める課題を設定し、思考方法や表現方法について学習する活動を行う。 R5全国学力学習状況調査の問題を、R6年2月末に授業で取り扱う。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | R5年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問において、肯定的な回答の割合を80%以上にさせる。 | ⇒ 全ての教科授業において、自ら考え、自ら取り組む課題による学習活動を年間の計画に位置付ける。また、学習の理解度や学習の方法を振り返る時間を設定する。 |

| ⑤ 目標・策の達成状況 | | 評価(※) |
|---------------|---|-------|
| 知識・技能 | R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率は、1年国語で市平均を上回った。R4年度さいたま市学習状況調査の自校正答率と比較すると国語では1年:+2pt、2年:+4pt、数学では1年:+7pt、2年:+1ptと値が上昇した。今後も繰り返し学ぶ機会を設定し、学習内容の定着を図る。 | B |
| 思考・判断・表現 | R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」の平均正答率は、市平均を下回った。R4年度さいたま市学習状況調査の自校正答率と比較すると、国語では1年:+1pt、2年:+3pt、数学では1年:+2pt、2年:+1ptと値が上昇した。生活に関する調査「学級の友達と会話する活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」の質問項目について肯定的な回答が1年、2年とも90%近い値であった。今後も話し合い活動が「思考・判断・表現」の習得につながる授業を継続して展開していく。 | B |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目について、R5年度全国学力・学習状況調査(3年)、R5年度さいたま市学習状況調査(1、2年)の肯定的な回答が80%以上であった。R5年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点やよく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができたか」の質問項目について、肯定的な回答の自校平均が79.3%であった。今後も継続して主体的に学習に取り組もうとする意識を高める活動を行い授業改善を図る。 | B |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

| ② 学習状況調査 全国学力・学習状況調査結果・分析 | |
|---------------------------|--|
| 知識・技能 | 「文脈に即して漢字を正しく書くことができるか」(国語)「数と数式の乗法の計算ができるかどうか」(数学)については課題が見られた。授業の中で繰り返し問題に取り組む機会を設定し、基礎学力の定着を図る。 |
| 思考・判断・表現 | 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうか」(国語)に課題が見られた。授業では、記述による解答を求める課題を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する学習活動に重点をおいて指導を行っていく。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問において肯定的な回答が80%を超えているので、今後も自ら取り組む課題による学習活動を継続していく。 |

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

| ④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。 | |
|--|--|
| 中1 | 国語の「知識・技能」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均より+2ptであった。「思考・判断・表現」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均に近い値であった。数学の「知識・技能」「思考・判断・表現」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均に近い正答率であった。既習を確認したり繰り返し学習させたりして基礎の定着を図り、生徒が「思考・判断・表現」が身に付くよう授業改善に努めていく。 |
| 中2 | 国語・数学の「知識・技能」「思考・判断・表現」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均より下回った。「知識・技能」については、系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり繰り返し学習させたりして、さらなる基礎学力の定着を図る。「思考・判断・表現」については、教科横断的に複数の情報から必要な情報を見つける、話し合い活動を通して解決策を見いだす活動に取り組む。 |
| 中3 | 生活に関する調査「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目について肯定的な回答が91.2%と高い値であり、R4年度の肯定的な回答73.6%より17%上昇した。生活に関する調査「学習した内容について、分かった点やよく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができたか」の質問項目について肯定的な回答が80.3%であり、R4年度の肯定的な回答より8%上昇した。R4年度の結果と比較すると値が上昇しており、生徒が主体的に学習に取り組んでいると考える。 |

| ③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後) | | |
|----------------------------|------|--------|
| | 目標 | 策 |
| 知識・技能 | 変更なし | ⇒ 変更なし |
| 思考・判断・表現 | 変更なし | ⇒ 変更なし |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 変更なし | ⇒ 変更なし |

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻中学校】

| | |
|----------|-----------------|
| ⑥ | 次年度への課題と授業改善策 |
| 知識・技能 | 次年度に向けて (3月) |
| 思考・判断・表現 | 年度末評価 (2月) |

| | | |
|----------|---|---|
| ① | 今年度の課題と授業改善策 | |
| | 学习上・指導上の課題 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | <学習上の課題> 漢字書き取りや基本的な計算など「知識・技能」について定着している生徒と課題のある生徒との間に個人差が大きい。 <指導上の課題> 個々にあった学習方法や習得した「知識・技能」を活用する学習活動が設定しにくい。 | 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」を活用し、国語・数学に関する漢字や計算などの基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定する。【授業開始時、家庭学習】また、これらの活動を通して、予習と復習を習慣化し、見直しをもって授業に取り組めるようにする。【さいたま市学習状況調査「学習内容について見直し、次に上げることができる」の質問項目について肯定的な回答の割合が80%以上】 |
| 思考・判断・表現 | <学習上の課題> 学習に対して意欲的ではあるが、自分の考えを伝える、根拠を明確にして書くことに課題がある。 <指導上の課題> 思考力・判断力・表現力を育成に重点をおいた学習活動が少ない。 | 各教科や「STEAMS TIME」における生徒の探究的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。また「Teams」や「ミライシード」などを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行う。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】。 |

全国学力・学習状況調査
＜小6・中3＞(4月～5月)

| | | |
|----------|-------|--|
| ⑤ | 評価(※) | 調査結果 授業改善策の達成状況 |
| 知識・技能 | | ①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等 |
| 思考・判断・表現 | | 結果提供(2月) |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

| | | |
|----------|---------------------------------------|--|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 調査の振り返り(4月) ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告 | |
| 思考・判断・表現 | 結果提供(7月) | |

調査結果分析(7～8月)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

| | |
|----------|--------------------------|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) |
| 知識・技能 | |
| 思考・判断・表現 | |

| | | |
|----------|-------|------------|
| ③ | 中間期報告 | 中間期見直し |
| | 評価(※) | 授業改善策の達成状況 |
| 知識・技能 | | |
| 思考・判断・表現 | | |

中間評価(9月)

目標・策の見直し

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)